平成30年度倉敷市立美術館協議会　議事録
〔平成31年3月12日（火）・10時～11時30分〕

委嘱状交付　　井上教育長より日向豊委員に委嘱状が交付された。

開会のあいさつ　　井上教育長より開会のあいさつがなされた。

新委員の紹介　　新委員として事務局より日向委員の紹介を行った。

議　　事　　議事の進行を事務局より玉置副会長に委ね、玉置副会長により会議が進められた。

（1）平成30年度事業報告

平成30年度事業報告について、事務局よりパワーポイントで説明。

副会長： 平成30年度事業について、委員の皆様のご意見をお願いいたします。

委　員：「くらしき物語」展は大変興味深く拝見しました。寄贈作品が27件あったとのことですが、地域に根差した展示活動が収集に繋がったものと思います。購入予算の無い中で大変とは思いますが、素晴らしい作品をたくさん収蔵されたことですし、地域の皆様に見ていただける活動の成果ではなかったかと思います。

委　員：展覧会入館者数が今年は少なかったということですが、倉敷の街中の観光客は増加しているように拝見します。展覧会はテーマがコアになればなるほど、一般のお客様には判りにくいものです。誰が見ても判りやすい内容の展覧会と、学芸員の研究成果をいれたコアな内容の展覧会とを、おりまぜて実施されたらよいのではないでしょうか。集客には時間と労力がいるでしょうが、美術館をうまくPRできたら、美観地区を歩いている観光客も来館者として見込めるでしょう。

委　員：展示事業を拝見しても、倉敷っ子美術展のように、無料だと入館者数は非常に多いですね。入館者数をかせぐには、無料にするというのも良い手でしょう。（収益を上げなくてよい）公立館の特権であることですし、PR等に労力もかからないので、倉敷美観地区を歩いている通りがかりの人を呼び込むにはいいのではないでしょうか。

副会長：豪雨災害のあと、街中でも非常に人が少なく、落ち込んだ空気を感じました。入館者減には、その影響が全くなかったとは言えないと思います。

平成30年度倉敷市立美術館協議会　議事録

1．開催日時	平成31年3月12日（火）　10時～11時30分
2．開催場所	倉敷市立美術館3階第2会議室
3．協議事項	(1) 平成30年度事業報告 (2) 平成31年度事業計画
4．出席委員	玉置里美委員(副会長)、大久保憲作委員 近藤千晶委員、佐藤順子委員、中田利枝子委員 日向豊委員、森山知己委員
5．会議録	別紙のとおり
6．出席職員	井上教育長、黒瀬生涯学習部長、坂田美術館長 前野主幹、杉野主幹、佐々木主任、前田学芸員

委　員：折角これだけのコレクションがあるので、これだけのものが観光文化都市倉敷にあると見ていただくのもいいのではないでしょうか。地域の小学生をとりこんでもいいでしょう。倉敷市内で行われるイベントにあわせた企画を行い、美術館に人の流れを呼び込むとよいでしょう。入場者数が少ないので、もっと少しPRをしたほうがいいのではないかと思います。

美術館：倉敷っ子美術展の会期と重なるコレクション展では、倉敷っ子を団体鑑賞で見に来る小学校に、コレクション展も無料で観覧できると積極的に勧めています。一昨年前から「みるを楽しむ！アートナビ岡山」による対話型鑑賞会を希望する小学校に行い、ご好評いただいています。今年度は二万小、箭田小、水島小、倉敷東小の４校にご利用いただきました。

委　員：中学校はないのですか？

美術館：中学校は倉敷っ子に団体鑑賞に来ないのです。今年は豪雨災害により中止となりましたが、ここ数年の間夏休み中に、倉敷市中教研美術部会の事業として、中学校の美術部の生徒を集め、展示室内で対話型観賞会を実施しています。

委　員：一年間美術館を拝見させていただきましたが、豪雨災害の後、街中にも人が少なく、美術館職員の皆様も、災害対応で色々な所に派遣され、美術館にいなかったですね。倉敷芸術科学大学では、豪雨災害にあった小学校や中学校に、災害前に授業で関わることもあり、心配していましたが、倉敷っ子美術展に作品がでていて安心しました。教員の皆さんが熱心に取り組まれており、この活動が倉敷にとって、とても大切なものだと思いました。

屏風祭には、芸術科学大学も色々と関わらせていただきましたが、街自体も変わってきたのを感じました。大きなお祭りやイベントには、美術館も関っていかれたらよいでしょう。地域の美術館としての活動が、市内のいろんな活動との連携がとれたら地域に効果的にPRできるでしょう。

倉敷っ子美術展は地域で一番のイベントと思いますし、これからも続いてほしいですね。

委　員：倉敷っ子美術展の会期中は、エントランスに入ると壁画がすぐ目に入ってきました。東京の子どもたちが制作した「がんばろう真備」の作品は、3.11ともオーバーラップしました。エントランス吹き抜けの壁画に共同制作作品など、倉敷っ子美術展とのコラボレーションという意味でも、これまでにないものだと思いました。大人も子どもも、皆さん共感したことと思います。

委　員：エントランスホールの受付にいると、外国からのお客様もよく来られ、国際的な面もでてきたように感じます。美観地区の観光客や、市民のかたが美術館に流れるようにしたら、美術館の活性化になるのではと思います。

近年は商業施設、文化施設問わず、どこでも複数言語の表示が見られますが、この美術館は日本語のみで残念に思います。外国語対応の表示や印刷物がもっとあれば親切でしょう。

倉敷っ子美術展の会期中に受付をしている時、ひとりの女の子がこの美術館の作品は解りやすいと話しかけてきました。美術作品だけでなく、市内の各小学校の作品が飾られていますし、いろんなジャンルの絵を展示してほしいものです。それがひいては美術館の活性化につながると思います。

副会長：委員の皆様の中でも、一番長くこの美術館におられる方の貴重なご意見ですね。

委　員：「くらしき物語」展は、倉敷にある美術館として、一番大事なものをテーマとした展覧会だったと思います。また、屏風祭協賛展示も見せていただきました。色々な作品があってよかったですが、入館者数が少ないことが残念です。この美術館だけの企画だけでなく、市内の様々な所とコラボして集客を図ったらよいのではないかと思います。内容も一つに限らず、色々な方向性が見えてくるのではないでしょうか。

副会長：コラボは美術館の、ひとつの起爆剤になりそうですね。もうすぐ始まる倉敷音楽祭は、「春がきた」という感じのイベントですが、県外からお客様が大勢来られます。こうした時にコラボを試みられたらよいと思います。

委　員：やはり一番気になるのは、入場者数の減少ですね。こういう状態だと、企業では成り立たないでしょう。豪雨災害の影響もあるでしょうが、平成29年度は前年度に比べて86％でしたが、今年度は29年度に比べて66％、28年度の57％の入場者数で、危機的な状況にあると言えるでしょう。公共の美術館にしても、ちょっと少ない数字だと思います。美術館が入館者減に対してどういう手を打っているのかと思います。

平成30年度は、展示事業が16事業ありますが、来年度は9事業しかありません。入館者数が少ないのに、事業をさらに減らしてよいのかと思います。開催期間も、30年度はのべ601日間ありますが、31年度は329日しかありません。これはいかがなものかと思います。

展覧会の有料・無料の話題がでましたが、30年度事業では有料展・無料展の回数はそれぞれ何回ありますか？

美術館：有料の展覧会は9回、無料のものは7回あります。平成31年度の資料では3階

ロビー・コーナー展示の記載は省かせていただいているので、会期も短くなったように見えます。

委　員：いっそのことコレクション展は無料にした方が、集客の工夫は広がると思います。有料の展覧会はよほど目玉になるものだけにしたらどうでしょうか。マーケティングなども行って、展覧会をやる以上は入館者が増えるようにしたらよいでしょう。

委　員：市内の他のイベントとのコラボはとても大切だと思います。美術館だけで事業を行うのではなく、コンベンションなどで行う他のイベントと連動したらよいでしょう。美術館だけでやると確実に減少します。

委　員：展覧会もどなたが企画をするのか知りませんでしたが、「くらしき物語」で倉敷・玉島・児島編と、会期によってエリアを分けたのに必然性があったのでしょうか。児島編では1日当たり42人の入場者数で、玉島編・倉敷編では36人です。地元の倉敷地区でゆかりの展覧会を行っても、1日たった36人の入館者数です。それに対して倉敷っ子美術展では1日536人、院展では277人、倉敷美術展では205人です。これがコレクション展になると、突然60人台に落ちてしまいます。展覧会入場者の延べ人数もそうですが、1日あたりの入館者数が少なすぎます。

副会長：様々な分野で活躍されている委員さんがいらっしゃるだけに、こうした数字に基づいたご意見は美術関係者だけの話し合いではでてこないでしょうし、さすがだなと思います。

委　員：内容についてはしっかりされるでしょうが、まず美術展のありようを考えられたらよいのではないでしょうか。

副会長：私が今年度拝見した展示会の中でも、「くらしき物語」展は一番印象深いものでした。私は学校の教員を勤めていたものですから、この展覧会を拝見した時、学習指導要領を思い出しました。地域の美術に密着したこの展覧会は、指導要領にあった、「郷土を愛する」「伝統を尊重する」気持ちを育もうという項目にぴったりでしたが、地元の小・中学生が果たしてこの展覧会を観ているのかと危惧しました。却って地元の人は見ていないのではないでしょうか。私のように倉敷市外からこちらに来た者にとって、改めていろいろな点に気づかされましたし、玉島って面白い地域だとも思いました。玉島には市民交流センターがあり、そこにこちらの美術館の出張展示ともいえる、池田遙邨・坂田一男の顕彰記念室があるのですが、すごくコンパクトに整然と作家の紹介をしていて見事なものです。ひとつの展覧会をきっかけに見識がひろがる

展示で、拝見してよかったと思います

他にご意見がありましたらお願いいたします。

委　員：倉敷芸術科学大学の先生方の作品を、一堂に会した展覧会をされてはいかがでしょうか。どういう方がおられるのか楽しみな展覧会です。

委　員：芸術科学大学に５，６年前からおりますが、確かに学内にいろんなジャンルの先生がいらっしゃいます。絵画だけでなく、メディア系の人も、プロジェクションマッピングを行ったり、アニメの上映など幅広く活動されています。ただ、人員が少ないので計画的にしないといけませんが。

屏風祭でも大学でコラボさせていただきましたが、予算の問題や学生の減少など、問題も多々あります。大学が倉敷市内でどういった役割にあるかを意味づけ、様々なイベントと連携できればと思います。

天神山文化プラザにも委嘱で行っておりますが、やはりそちらでも来館者数は減少傾向にあります。その原因の一つとして、利用者の高齢化が大きいのではと思います。

メインであった利用者が高齢化により減っていく、若い方で文化芸術に関心のある人が減っていくという状況にあります。教育との関係がある中で、文化芸術に関心ある人を育て、子ども達を育てることを、この美術館としてもどういう位置づけでやっていくかが問われていると言えるでしょう。

委　員：文化行政なので倉敷市が少し出したらいいのではないかと思います。コレクション展は無料でもいいのではないでしょうか。

美術館：コレクション展での入館料徴収は、条例で決まっているから行っています。金額を決めた根拠ははっきりしていません。ある程度の受益者負担を市民に持っていただくというのが根底にあって、少ない金額ですが有料にしています。その他特別展はその時々で金額を決定しています。

委　員：コレクション展は美術館の所蔵品であり、いわば市民が税金をはらって運営しているものなので、コレクション展は無料でいいのではないでしょうか。無料にすることで、多くの方にみていただく方が、美術館としてよいのではないかと思います。コレクション展の入場料、210 円は中途半端な感じがします。もう少し高い金額だとむしろ見てみたいという気になるでしょう。無料にして少しでも多くの市民の皆さんに見ていただいたらいいのではと思いますが、教育長はどのようなお考えですか。

教育長：大人 210 円程度の金額だと、無料にしても有料にしても、館の運営にほとんど

影響がないと思われますが、今後全体的な検討の中で方向性を出していかなければなりません。

委　員：美観地区から道路一本の向かい側に美術館があるので、観光客の流れがこちらに動いてくる仕掛けがあっていいのではないでしょうか。観光マップの中にそういう風に動きを誘導するものがあってもよいでしょう。加計美術館は、上まで上がってくる人がいるかどうかは別としても、１階のショップによく観光客が入ってきます。無料というのも入ってきやすいのかもしれません。岡山県立美術館にも、１階にショップがあります。こちらはこういう観光地なので、お土産がほしい人も多いでしょうし、この美術館の１階にショップがあれば、人をこちらに誘導できるのではないでしょうか。加計美術館もショップを作ってから、ショップ収入でポスター印刷代がでるようになりました。

委　員：数字を考えたら色々と厳しいものがあると思うので、通り道を美術館に作って、人が通るようにするとよいでしょう。

ただし数字だけでなく、大学も美術館もどういう人材を育てるか、文化を育てるかも大切でしょう。

委　員：数字のみが問題とは言いませんが、大切なことと思います。日曜美術館ででもＰＲされると、どっと入場者が増えるでしょう。館の方針も大事ですが、お知らせの仕方も工夫していただきたいものです。

委　員：美術作品にたいして社会的な意義づけをする評論活動が、日本では弱いのだと思います。この作品の意義はどんなものか、きちんとブランディングすべきでしょう。

委　員：倉敷は３つも日本遺産があるのにもかかわらず、それらを一堂に見せる所がありません。そういう所に力をいれて、アートも同じ所できちんと見せたら、人が増えると思います。

教育長：日本遺産については、紹介する冊子はたくさん印刷するのですが、展示品をまとめて見せる機会がなかなかありません。３つの日本遺産の場所は広域すぎて、観光客はそこに行こうとは思わないようです。

美術館とは直接関係がありませんが、どうやって日本遺産を周知するかは課題です。倉敷市では市内の子どもに教えてはいますが、市外の人に知らせるのは難しいです。

委　員：この美術館の建築はよいですね。

委　員：建築を見直そうという動きは、天神山文化プラザでもあり、前川國男の建築ということでＰＲし、建築見学のツアーも多数行っています。ブランディングはやはり大切で、市外の人がいいと評価する所は、市民の人もいいかと逆に思うでしょう。いかに価値を伝えていくかが大切です。

委　員：この美術館の建物が丹下健三設計により、市役所として建てられた同時期に、国際ホテルが浦辺鎮太郎によって建てられました。丹下はコルビュジエにならいこの建物を設計し、建築史的にも意義あるもので建築ファンが注目しています

委　員：この建物だけでも、観光コースの一つになる価値はあると思います。

教育長：役所としては使いにくいですが、美術館の建物としてはよいし、今の倉敷市役所よりきれいなぐらいです。建物もファンの方が結構いらっしゃるようですね。

副会長：建物も含め、委員の皆様からいただいた、様々なご意見を今後の運営に繋げていただければと思います。

（２）平成 31 年度事業計画

平成 31 年度事業計画について、事務局より資料に従って説明。

委　員：３階ロビー・コーナー展示の表記がないので日数が少ないとの説明ですが、それにしても今年度よりは会期は少ないと思います。今年度はコーナー展示を除いても 370 日近くはありますが、来年度はちょっと減っている感じがあります。予算は増えているので、しっかりやっていただきたいものです。

委　員：高橋秀先生と藤田桜先生の展覧会は盛り上がるだろうと思います。
棟方志功展示はいいと思いますが、それ以外は少し寂しい感じがします。

委　員：棟方志功の作品は昔の人は皆知っていますが、今の人はどうでしょうか。今はちょっと前のことも忘れてしまい、地域の偉人のことなども、ともすれば忘れられています。そのため展覧会に人が集まりにくくなっているとも言えるでしょう。こういう現状だからこそ、古いことを伝える必要があると思います。棟方のような昔の作家のことを、若い人に伝えることが、美術館のテーマになるでしょう。現在、日本全体の状況は、文化に対して消費するばかりで、今流行りのアニメなども消費される対象で、これでは次世代に価値あるものを残すのが難しいと思います。棟方志功をどう伝えるか、大切でしょう。

委　員:2019年度事業予算が資料にありますが、まだ議会では承認されていないですね。

美術館：議会での承認はまだこれからになります。

委　員：2019年度予算が前年度に比べて500万円ほど増えているのはなぜですか。

美術館：特別展が今年度より予算がかかるということと、消費税が８％から10％に上がるのが大きいです。

委　員：歳入は消費税分上げていますか？

美術館：消費税増加に関する設備使用料の値上げについては規則なので、教育委員会で承認ができます。入場料など値上げなど、条例上での変更があるものについては、全庁で一括して12月議会で出しています。

委　員：しっかり予算を増やしていただいて、市民に来ていただけるよう、頑張ってください。

委　員:来年の目玉は秋の特別展ですね。予算もたくさんとられているようですが、様々な所から作品を借用する予定なのですか？

美術館：この展覧会は美術館連絡協議会の主催で、世田谷美術館、当館、伊丹市立美術館、北九州市立美術館の４館で共同企画する巡回展です。今年７月に世田谷で立ち上がります。世田谷美術館や東京国立近代美術館、広島県立美術館、北九州市立美術館など、広範囲にわたり作品を集荷するので、輸送費もかなり嵩みます。

委　員：倉敷は何会場目ですか？

美術館：２会場目です。

委　員：共催にはどういったところが入りますか。

美術館：美連協主催なので、読売新聞社が入ります。他には山陽新聞社、報道各社等に申請予定です。マルセンスポーツ・文化振興財団からは協賛をいただく予定です。

委　員：折角いい作品が寄贈されているのに、コレクション展でひとくくりにして紹介

するのが勿体ないように思います。こんな作品が美術館に入ったと、もっと市民にアピールしてはいかがでしょうか。倉敷にはこんないい作家がいて、いい作品があるということを、例えば小学校などにチラシでお知らせしたらよいのではないでしょうか。作家の出身校にファックスなどで、学校の先輩がこうした作品を展覧会に出している、というのを知らせてあげるのもよいでしょう。せっかくいい作品をいただいたのだから、もっとアピールしていただければと思います。

購入予算はありますか？

美術館：ありません。

委　員：県内の美術館や博物館で話題になっているのですが、私ぐらいの年齢の学芸員が定年を迎えて次々と退職するなか、その次の世代の学芸員は10歳以上離れていて、ここまで私たちが培ってきたものを伝えるのが難しくなってきています。所蔵者や作家などとの、これまでの人間関係が断絶してしまうのは勿体ないという話がよくでてきます。この美術館も歴史が長いですから、これまでの蓄積を継続するためにも、人的配置をそろそろ考えられてはいかがでしょうか。

委　員：ＫＣＴでは展覧会告知のようなものはされますか？

委　員：日曜美術館のように、お話しができる方に月一回ごとにお話ししていただけたらよいのですが、ＫＣＴでやる以上お金がかかります。この美術館ではＰＲの予算があまりついていないようですが、展覧会事業についてもっとお知らせしたほうがいいでしょう。美術館の意図が市民に伝わりにくいと思います。ＦＭでは音だけになりますが、こちらで開催されるオープニングでの作陽大学のコンサートも、折角やっているのでもっと市民にお知らせしないと勿体ないでしょう。密かにやっているという感じを受けます。

委　員：高橋先生と藤田先生の展覧会の場合は、倉敷の財界人がバックアップして相当盛り上げることでしょう。周りの人を巻き込むのは必要だと思います。

副会長：広告宣伝は大切ですが、学芸員にとっては苦手なことでしょう。いろんな案をいただいたので、これからの課題として取り組んでいただければと思います。

来年度は、展覧会の数としては少ないでしょうが、長いスパンで見ていただいて、今年度はこの展覧会、来年はまた違う内容のものをするようにしていただくのがよいでしょう。昨年度開催された山本二三展のような、これまでにないジャンルを紹介することも大事ですし、くらしき物語のように、この美術館としてあってしかるべき展

覧会も大事です。　その都度都度、よい展覧会をやっていただいていると思いますし、私たちも広告にご協力できればと思います。

委　員：倉敷の小学生による大型壁画は、まだ現物はあるのですか？

教育長：教育委員会が所蔵していて、イベントなどで要望あれば貸し出しもしています。市内の中学生が説明文の英語翻訳もしていて、国際化に対応しています。

委　員：展示する場所によって見え方も違うのでしょう。美術館は展示によいと思います。

平成30年度の事業報告および平成31年度の事業計画に関して、満場一致で承認された。

閉　会

上記のとおり相違ありません。

平成31年　3月16日
倉敷市立美術館協議会
副会長　玉置　里美